

卒業論文

チューター活動における日本人学生の動機づけ

2010年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

2015年1月 提出

要約

本研究では、チューター活動に携わる日本人学生の意識をインタビュー調査によって明らかにし、どのような動機づけが働いているのかを考察することを目的としている。

第1章では、まずチューター活動そのものについて説明している。簡潔にいうと、チューター活動とは、留学生に対し日本人学生があてがわれ、勉学・研究・日常生活を支援する活動のことである。次に、筆者自身のチューター活動経験を紹介している。そして、チューター活動が留学生だけではなく日本人学生にとっても好影響を与えていること、しかし、そのチューター活動には多くの課題が残されていることを指摘する。それを踏まえた上で、チューター活動における日本人学生の動機づけに関する問題設定を行う。

第2章では、先行研究を幅広く紹介している。まず、大学の国際化という潮流を確認する。そして、チューター活動が留学生支援の中でどのように位置づけられているかを示す。チューター活動は支援だけではなく、交流という役割も期待されているので、それに関する研究も取り上げた。最後に、チューター活動に関する代表的な研究をまとめて、プレ調査へとつなげている。

第3章では、プレ調査についてまとめている。まず、先行研究をもとにして得られた知見をもとに、チューター活動における動機づけに関して整理して、「国際的な仕事」「留学の準備」「語学力の向上」「留学生との交流」「奉仕」という5つの要素を抽出して、プレ調査の目的を定める。そして、対象者の選定を選定する。その対象者がチューター活動を行っている交換留学プログラム JTW についても説明を加える。そして、インタビュー調査の概要、質問項目、結果をまとめている。

第4章では、本調査についてまとめている。まず、プレ調査の結果をふまえて、問題意識をもう一度整理する。そして、そこから生まれた、「ファッション」と「逃避」という動機づけの可能性について検討している。そして、プレ調査時と同じ JTW 日本人学生チューターにインタビュー調査を実施した。その結果、程度こそあれ、「国際的な仕事」「留学の準備」「語学力の向上」「留学生との交流」「奉仕」「ファッション」「逃避」という動機づけにもとづいて活動を行う日本人学生チューターの姿が浮かび上がった。

第5章では、本研究で明らかになったことをまとめるとともに、現在の日本社会におけるチューター活動の位置づけやその重要性について改めて考えを述べている。

最後に、本研究の課題を指摘して、お世話になった方々に御礼を述べ、本論文をしめくくっている。

1	問題設定	1
1.1	チューター活動とは	1
1.2	私のチューター活動経験	2
1.3	問題設定	3
2	先行研究	4
2.2	大学の国際化に関する先行研究	4
2.2.1	日本の留学生受入れ政策の変遷	4
2.2.2	近年の大学の国際化に関する政策や先行研究	5
2.2.3	グローバル人材育成に関する政策や先行研究	6
2.2	留学生支援に関する先行研究	7
2.2.1	留学生受入れの5つの段階	7
2.2.2	留学生支援の領域	7
2.3	異文化や留学生交流に関する先行研究	8
2.3.1	日本人の異文化間対人関係の特徴	8
2.3.2	異文化対応の類型	9
2.3.3	日本人と留学生との交流	9
2.3.4	日本人学生を対象とした国際性に関する意識調査	9
2.4	チューター活動に関する先行研究	10
3.	プレ調査	12
3.1.	プレ調査の目的	12
3.2	対象者の選定	14
3.3	JTWプログラムについて	15
3.4	JTWプログラムのチューター制度について	15
3.5	プレ調査の概要	16
3.6	プレ調査の質問項目	16
3.7	プレ調査の結果	17
4	本調査	22
4.1	問題意識の整理	22
4.1.1	ファッションとしてのチューター活動	22
4.1.2	逃避としてのチューター活動	23
4.2	本調査の概要	23
4.3	本調査の質問項目	24
4.4	本調査の結果	25
4.6	分析と考察	32

5. まとめ	36
おわりに	38
参考文献	39